

女性・若者と県議会議員との意見交換会の概要

一般財団法人酒田コミュニティ財団との意見交換会

開催日時	令和8年8月5日（水）13時30分～15時00分
開催場所	一般財団法人酒田コミュニティ財団事務局（酒田市）
出席議員	田澤伸一、佐藤寿、阿部恭平、鈴木学、佐藤文一
参加者	酒田コミュニティ財団関係者、東北公益文科大学生 等 11名
意見交換の概要	①若者が主体的にまちづくりに関わる場づくり、②若者を支援する上での課題について、2班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。 【主な意見等の内容】 ①若者が主体的にまちづくりに関わる場づくり ・小中学生の居場所がないと感じる。また、大学生も、バイトが終わった後の夜間の居場所や勉強する場所がない。若者の集まる場所づくりになるようなプロジェクトに支援をお願いしたい。 ・空港なども含めた酒田への玄関口は、若者がワクワクするような場所になってほしい。 ・若者の居場所を作る必要があると同時に、そこに行くための移動手段もいる。 ・夜間の循環バス、カーシェアリング、電動キックボードの利用などをやってはどうか。 ・自分は若いころに地元の祭りに深く関わり、周りの大人から自由にやらせてもらったが、同様の経験を今の若い人にもして欲しい。 ・若者にとって、地元で自分を知ってくれている大人がいることが大事。知ってくれている人がいるから、戻ろう、行ってみようとなる。 ・自然を生かしたアクティビティなどがもっとあるといい。 ②若者を支援する上での課題 ・町の人との交流の場、情報共有の場がない。 ・通常、若者だけでは、「〇〇の事業にお金を付けてほしい」という意識が出てこない。支援制度の活用をしてもらうためには20～50代の社会人のサポートが必要である。 ・若者と常に関わっている人、先生、若者の保護者に焦点を当てて活動を支援している。先生がやりたいことを叶えると、それが子どもたちのやりたいことにつながっていることが多い。 ・新しい取り組みをするとき、味方になってくれる人が多いほどやりやすい。 ・町内会やNPO活動に人が集まらないのは、やりがいがあるかどうかによる。これまでの役割分担を踏襲するのではなく、やる気のある人にやりたいことをやってもらうといった手法に変更してはどうか。

	・コミュニティ維持のためには、若いうちからコミュニティ活動に参加する機会が必要であり、そのためには企業の力が必要。例えば企業は週休4日制にして、うち週1日でも、月1日でもコミュニティ活動に充てるのはどうか。 ・東北のボランティアは多くの東京の人が立候補してやってくれており、やりたい人は無償でも集まる。企業の地域貢献活動の認知が広がっていくと少し変わっていくと思う。 ・新しい取組みにはいろいろ制限がかかるが、「こういう方法ならできる」のようなアイデアも行政からも出るようになると良い。
--	---